

第2章

環境と持続可能な
開発に配慮した
スポーツに関する
一般条件





2.1 スポーツを通じた活動

オリンピック競技には、個人またはチーム単位のスポーツ、陸上と水上、屋外と屋内、野外とスタジアム競技があり、動物や器具を使用する場合もある。このようにスポーツは多様性に富むが、これらは、環境保全や持続可能な開発に関係する数多くの普遍的側面があるという点では共通している。

まず、明確にすべき点は、環境保全活動を行うのは、選手だけではないということだ。環境保護や持続可能な開発を推進するためには、各競技団体を代表する選手だけでなく、すべての関係者が意識を持って取り組むことが大切である。

選手は、スポーツマン、あるいは、スポーツウーマンとしての自覚に基づき環境保全と持続可能な開発に積極的に貢献すべきである。

さらに全体的には、オリンピックファミリーは一丸となって同様に貢献すべきである。各構成員、すなわち、国内オリンピック委員会 (NOC)、国際競技連盟 (IF)、コーチ、クラブ、イベント主催者、器具メーカー、メディア、観客などがそれぞれの活動の中で、資源保全、社会経済的状況の持続可能な開発の促進、スポーツのイメージ向上に役立つ数多くの対策を講じるべきである。

2.2 活動の場

スポーツ界は、世界レベル、国レベル、地方レベル、個人レベルで環境保全や持続可能な開発の推進に貢献できる。

2.2.1 世界レベルでは、上記の活動を行うことは、IOC、IF、多国籍メディアや多国籍スポーツ用具メーカーの責任である。これらの団体は、自己の運営方法及び開催都市やスポンサーの選考基準を通して環境と持続可能な開発に配慮しなければならない。例えば、IOCは、UNEP (国際環境計画) との提携や各種委員会、特にスポーツと環境委員会の活動を通して、オリンピック大会開催地選考基準に上記の原則を反映させる必要がある。これは、多くのNOCとIFにも求められることであり、これらの団体は、独自の環境と持続可能な開発委員会をすでに設置している。一方で、多国籍スポーツ用具メーカーも前章に記載した規格の導入や取り組みの実施により、その役割を果たすことができる。

2.2.2 国レベルでは、これらの活動は、主に、NOCや各国のスポーツ連盟の責任であるが、スポーツ用具メーカーや流通業者及び各国メディアもそれに係わる。実際のプロジェクトは、各国の政治当局、非政府組織、民間企業と協力して実行される場合もある。特に当該プロジェクトは、各国の特徴 (地理、気候、文化、社会経済的状況) に応じて特有の方法を採用することができる。

2.2.3 地方レベルや個人レベルでは、所属するクラブ内での選手の心構えや個人的な意欲や活動が膨大な数のシンプルで効果的な取り組みの礎となる。ここでも、地方自治体や地元の組織及び環境専門家との緊密な連携が非常に重要となる。それらの活動には実用的な側面が求められ、その結果を一般市民に直接開示する必要がある。





第2章：環境と持続可能な開発に配慮したスポーツに関する一般条件

2.3 心構え

今日では、地理的状況、政治的状況、経済的状況、社会的状況、倫理的状況、宗教的状況に関係なく、あらゆる社会で環境保全と持続可能な開発は、強く支持されている価値である。この価値は、将来のスポーツ発展の鍵を握るものであり、オリンピックファミリーとしても、あらゆるレベルでこの価値を積極的に推進することが重要である。

- 各選手は、精神や肉体の調和を図り、さらに環境との調和も果たして初めて自分もつ可能性を發揮できる。
- トップ選手のレベルにおいては、環境の質は彼らの成績に影響を及ぼす。また、環境に配慮することと持続可能な開発を推進する活動に参加することは、彼らの義務の一つであり、模範的な人物として認知される。
- チームの場合、環境への配慮や持続可能な開発を推進する活動への集団参加こそが、メンバー全員が健全な態度と心構えを持つチームづくりに役立つ原則の一つである。



図20：ナイロビ（ケニア）のマザレでは、チーム精神と環境保全を並行して指導している。

- 用具メーカーやスポーツ施設施工業者の場合、製品の品質、ブランドイメージとともに、企業の一般的評判にとって今日重要なのは、環境保全対策、天然資源保全対策、持続可能な開発基準を満たすための対策をとることである。
- 特にメディアには、一般市民を教育し、スポーツのイメージを守るための大きな責任がある。そのため、メディアは、選手と彼らを取り巻く環境との間に調和が必要なことと、持続可能な開発の推進においてスポーツが果たすことができる役割を強く呼び掛ける必要がある。
- 観客にとって、環境に配慮することは、環境保全に個人的に係わることであり、スポーツのイメージ向上に貢献するための積極的な手段である。



2.4 基本原則

まず、人間自体が環境の中心的存在ではないとしても重要な部分であること、人間自身を攻撃することは、環境全体を攻撃することに繋がることを忘れてはならない。したがって、環境に配慮するには、まず、個人の側面、特に生物学的側面に配慮すべきである。麻薬撲滅運動は、個々の人間に長期的に強い心理的・生理的影響を与えるので、環境保全と持続可能な開発の推進にも貢献する。

野外やスタジアムで行われるいかなるスポーツも、開催場所の環境に新たな脅威を与えないことが重要である。したがって、スポーツ活動が以下の結果につながってはならない。

- 水質汚染
- 固形廃棄物の排出
- オゾン層を破壊する有害ガスや温室効果ガスの放出
- 土壌の汚染や破壊
- 森林破壊への関与
- 生物多様性の縮小
- 物理的または美観的な景観破壊
- 再生可能資源の減少

持続可能な開発に関しては、スポーツ活動の際に次のことに留意することが非常に重要である。

- 原料、エネルギー、水のいずれの資源も浪費しない。
- 一部のグループや地区の人々を排除しない。
- 文化や信仰を冒瀆しない。
- 地元の経済活動に損害を与えない。

また、スポーツは、環境保全と持続可能な開発を強化することにより良い模範を示すことができる。スポーツを通して、次のようなことが実現可能である。

- 自然に対する認識と自然から受ける喜びが増す。
- 環境汚染による健康被害をなくす。
- 最小限の汚染と最小限の資源を使う交通手段を普及させる。
- 様々な社会グループ間の交流と相互理解に貢献する。
- あらゆる種類の差別を排除する。
- 青少年を暴力から守る。
- 障害のある人々やグループの社会参加に貢献する。

障がい者に対しては、スポーツ界は特に大きな責任を持つ。世界レベルや国レベルでは、パラリンピックムーブメント（手足欠損者、車椅子使用者、脳性麻痺者、視覚障がい者、歩行障がい者が参加）とデフリンピック・ムーブメント（聴覚障がい者が参加）を通して、この責任を果たすことができる。地方レベルでは、全ての選手、クラブ、スポーツ施設管理者が、身体障がい者や聴覚障がい者をトップ選手、アマチュア参加者、観客のいずれであろうと差別せずに迎え入れる態勢を整えることに責任を感じる必要がある。またメディアにおいては、障害のある選手が参加するスポーツイベントに健常者が参加する同様のイベントに匹敵する面白さがある場合は、そのスポーツイベントにスポットを当てる必要がある。



